

— 自然のしくみ —



— ブナ林と共存する林床植物 —

— 行 事 案 内 —

☆ 特別展

- 宮坂コレクション展
7月6日(日)～7月20日(日)

☆ 催し物展

- 夏休み学習展
7月25日(金)～8月24日(日)
- ・ 学習相談日
7月29日(火)、8月19日(火)
- ・ 野外教室
8月8日(金)
- 薬草展
8月30日(土)～9月7日(日)
- 鳥海火山展
9月7日(日)～9月28日(日)

ブナ林とチシマザサ

日本のブナ林は、林内に生えるササ類のちがいで、大きく3つに区分されます。このすみわけ現象は、最深積雪量(50cm)に深くかかわっているといわれています。

山形県を中心とする裏日本地域のブナ林には、必ずと言ってもよいほど、大形のチシマザサが群生しています。チシマザサの生活型や越冬芽の位置をみると、積雪や低温乾燥にみごとに対応できるしくみになっています。

この他にも、山形のブナ林内に生える植物群には、チシマザサと同じようなしくみを持った種類が、数多くすみついています。

— 夏休み中の催し物展 —

第 5 回 夏休み学習展ご案内

もうすぐ夏休み!!野に山に海に子どもたちは自由に解放されるシーズンがやってきます。夏休みは子どもたちにとって、自主的な活動が要求される時でもあります。特に夏休みの学習として行なわれる自由研究には、子どもたちは多くの問題をもって研究に努力しています。

博物館では毎年「夏休み学習展」を開催し、子どもたちの自由研究のしらべ方や、研究のすゝめ方・研究のまとめ方などについて下記の要領で指導し、子どもたちの自由研究の質的向上をはかるために催し物展や学習相談日、野外教室を開催いたします。開催期間中には親子・お友だちと一緒に見学して下さいますようご案内いたします。



タニセリモドキの花

「夏休み学習展」

(1) 展示のねらい 身近な自然や歴史に関心をもたせ、自発的な研究心を高め研究の仕方について理解する。

(2) 展示内容

理科・形や色のちがう石がどのようにできてきたかしらべて見よう。

・花と虫との関係をしらべてみよう。

社会・むかしの人々はどのようにして石器や土器を作り、使用してきたかしらべてみよう。

・町や村の石碑や神社から歴史をしらべてみよう。

・地図の上から町や村はどのような地形の上に発達しているかしらべてみよう。

「自由研究の相談日」

学習展の解説や展示をとおして、自由研究のす



注口土器と土偶

すめ方、しらべ方を理解し、子どもたちの研究テーマについて研究のすゝめ方、まとめ方について博物館職員と話し合い、充実した自由研究ができるように指導する日であります。

第1回	7月29日	{ 10.00時 }	映写会	{ 10.30 }	{ 13.30 }
		{ 16.00時 }		{ 11.30 }	{ 14.30 }
第2回	8月19日	{ 10.00時 }	映写会	{ 10.30 }	{ 13.30 }
		{ 16.00時 }		{ 11.30 }	{ 14.30 }

— 小・中生は当日入場無料です —



西川町本導寺湯殿山神社前

「野外教室」 ・期日 8月8日(金)

自然や文化財に身近かに接し、自然のしくみや文化財のもつ意味を学習する日です。

・集合時間 9.00 ・集合場所 県立博物館前
 ・コース 霞城公園—専称寺—天満宮—馬見が崎—愛宕山—盃山—愛宕山で解散
 (徒歩)

・持参品・服装 ノート、虫めがね、昼食、軽装ズックばき、帽子

・締切 8月3日(日)で先着50名です。(4年以上)

催し物展

山形の薬草展

8月30日(土)～9月7日(日)

いま、静かなブームを呼んでいるものに、薬草の利用があります。県内の山野にも、キハダ(黄柏)、オウレン(黄连)、ドクダミ(十薬)、イワテトウキ(当帰)、オオバコ(車前子)……等多くの薬草が自生しています。

しかし、それらが、薬草についての正しい知識をもって、上手に利用されているとは限らないようです。

「山形の薬草展」は、県内に自生するセンブリ、スイカズラ、ウツボグサ、ハマボウフウ等の薬草をはじめ、外国産のカミツレ、コノテガシワ、キササゲ、マオウ等の栽培薬草のなかから、特に、利用度の高い薬草や家庭では使っていない薬草を取り上げ、鉢植した実物を展示します。

薬草の効用度は、長い年月の間の経験を通してえられた知識を集積したものですから、それを知っておくことは、私たちがこれからの生活を営んでいくうえに大切なことです。

主な展示内容は次のようになります。

1. 薬用植物と生薬

2. 薬用植物の採取と利用上の注意
3. 漢方薬と民間薬のちがひ
4. 県内産の主な薬用植物
5. 外国産の栽培薬用植物
6. 利用部分による分類

なお、薬草には、採取時期、自生地環境、主な特徴、薬用部分、医効用等について解説し、正しい薬草の知識・利用の方法や種類の見方もわかるように展示します。

ぜひ、ご観覧くださるようご案内いたします。



山野に自生するスイカズラ(金銀花)

鳥海火山展

9月7日(日)～9月28日(日)

鳥海火山は、山形・秋田両県にまたがり、最高点2237.4m、山麓の周囲約120kmに及ぶ東北第1の高山です。鳥海火山は、複合成層火山で、2つの成層火山(東火山と西火山)より構成されています。

東火山の外輪山は、成層火山でその最高点は、七高山(2229m)です。その中に2つの中央火口丘(新山と荒神岳)が形成されています。

西火山は、二重式火山で、大きな爆裂火口と火口丘(鍋森山)からできています。また、火口縁

の上には、小さな成層火山(笙ヶ岳)と火口丘(扇子森)や小火口(鳥ノ海)があります。

この鳥海山が、昨年8月1日、突然噴煙を出し153年ぶりの火山活動が確認されました。この活動には、県民はもちろん国内外から注目され、心配されました。昨年の活動では、火山灰や火山泥流を噴出しましたが、現在は、その活動がなく静かになりました。

鳥海火山の環境やその性質は、科学的に極めて興味があります。この度の鳥海火山展では、鳥海山のしくみや成因を中心に、次のような内容の展示を計画しています。

- (1) 鳥海火山帯
- (2) 鳥海火山のしくみ
- (3) 鳥海火山の溶岩各種
- (4) 昨年の噴出物
 - ① 火山泥流
 - ② 火山灰
- (5) 鳥海火山噴火の歴史

おさそいあわせの上、ご観覧くださるようご案内申し上げます。



講 座 の 紹 介

「自然と人間」講座

県立博物館では今年度より一般婦人を対象に「自然と人間」講座を開講しました。

この講座は、つい見すごしがちな人間と自然のかかわりあいを私たちの生活や経験のなかに見だし、私たちが豊かな生活をしていくために、その基になるものを見きわめたいという主旨で開講されたものであります。

県内各教育事務所、市町村教育委員会、その他関係機関を通じて受講者を募集したところ、多数の応募者があり、定員50名でしめ切ることができず、70名の受講者で開講されました。受講者のなかから5名の運営委員がえられ、講座は自主的に運営されるようになっていきます。

第1回目は、開講式と「山形の自然」結城嘉美先生の講座などがあり、第2回目は6月13日(金)、白鷹山ピワ沼探訪として、植物、野鳥などの現地研修がおこなわれました。受講者のなかには、もう一度現地研修の講座を入れてくれなどの声があり好評のうちに進んでいます。

「自然と人間」講座 プログラムは次のようになっています。



第1回 6月6日(金) 山形の自然

1. 映画 最上川
2. 開講式
3. 受講者話しあい
4. 講師 結城嘉美先生
5. 内容 山形の自然

第2回 6月13日(金) 自然を探る(ピワ沼探訪)

1. 講師 吉野智雄・奥山武夫学芸員
2. 内容 森林の構成・湿原の植物
森林と沼の鳥類

第3回 7月11日(金) 紅花と染物

1. 講師 大場キミ先生、板垣英夫学芸員
2. 内容 紅花の歴史と紅花の植え方 紅花絵巻スライド 草木染と紅花(実習)

第4回 9月5日(金) 薬草と生活

1. 講師 吉野智雄学芸員
2. 内容 霞城公園内の薬草の観察と採集



薬草の上手な利用の仕方

第5回 10月3日(金) 自然と信仰

1. 講師 大友義助業務課長
2. 内容 路傍の石仏、山と川の生活、山寺のこと、出羽三山のこと、草木塔のこと、日本人の自然観

第6回 11月3日(文化の日) 講演会

(講師 未定)

「植物生態学」講座

学校教師、社会教育担当者、植物愛好者を対象として、自然のしくみや自然保護のあり方などについて研究し地域のリーダーを養成する目的での講座が開講されました。

自然と人間講座同様、関係各機関を通じて広く受講者を募集したところ、置賜、庄内など遠方からも、県内各地区より多くの方々の応募があり、定員を大巾にうわまわる60名でスタートしました。

第1回目は6月7日(土)「山形県の自然植生の特色」と題して結城嘉美先生講師でおこなわれました。結城先生の長年の研究や豊富な経験からうまれた中身のある講座で好評のうちに終了しました。

「植物生態学」講座 プログラムは次のようになっています。

第1回 6月7日(土)

1. 開講式
2. 講師 結城嘉美先生
3. 講座 山形県の自然植生の特色

第2回 7月5日(土)

1. 講師 石塚和雄先生
2. 講座 植物の生態と生態調査法
山形市千歳山

第3回 9月6日(土)

1. 講師 布施 降先生
2. 講座 植物と環境づくり

第4回 10月4日(土)

1. 講師 吉野智雄学芸員
2. 講座 緑化計画と植物生態系

第5回 11月3日(文化の日) 講演会(講師未定)

資料紹介

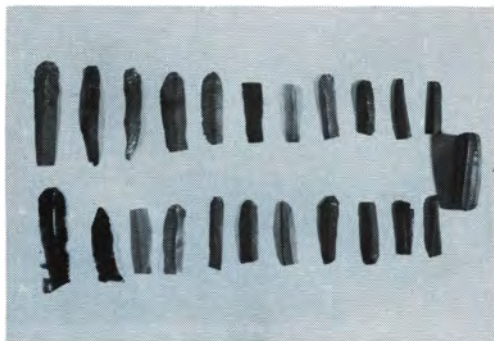
考古

角二山遺跡出土の細石刃

長い前期旧石器～後期旧石器時代のあと、土器の出現で代表される新石器時代を迎えるが丁度その過渡期中石器時代の存在が知られています。

中石器時代は地質時代から云う第四紀の洪積世末から沖積世の初頭にあたり、世界的に気候は寒冷から温暖へと、気温も上昇し、各地の水河は序々に解け、海岸にあっては海進が見られるようになる。ある低陸地は海面より姿を消し、ほぼ現地形に近い海が出来あがる時期です。

ナウマン象、オオツノシカ等の大型動物はいつ



角二山遺跡発見の細石刃と細石刃核

の間にかその巨体は見られなくなり、新たな主役クマ、シカ、イノシシ、ウサギ、キツネ等が登場します。

角二山遺跡は、最上川の右岸尾花沢盆地の西方その突端部にあり、詳しくは山形県大石田町大字大石田字上の原に位置しております。

昭和45年建設工事中に発見、同時に調査されたものです。角二山遺跡には凡そ2つの文化が重複しており、その1つは縄文時代前期の土器・石器や堅穴式住居址であり、堅穴式住居は当館考古展示室に現寸模型「復元堅穴式住居」として展示しています。さて問題の細石刃は縄文時代前期の文化の下にあり、粘土層から発見されています。

細石刃文化は、前述した中石器時代に位置し、山形県下においては現在他に5遺跡を数えるのみで後期旧石器時代の遺跡数に比して非常に少ないです。

角二山出土の細石刃はだいたい長さが4センチ前後、巾7～8ミリという非常に小さな石刃を、石刻より連続的に多量に打ちあがし、それらを1片1道具としてではなく、棒に溝を彫り、1片1片細石刃を植込んでいくいわゆる組立石器という全く新しい道具が発明されたのです。

民俗

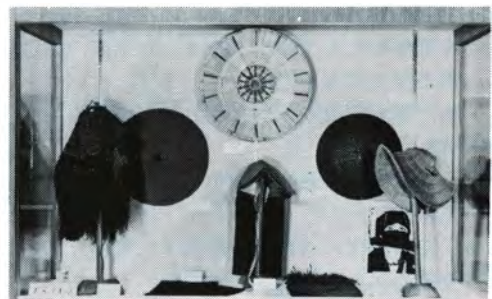
笠

梅雨のシーズン、6月の季節は天気の良い時は蒸し暑く、曇天は重苦しく、雨はじめじめしており、気候上、人々にとってこれ程生活のしにくい季節はないが、稲作や山野の樹木にとって恵みの季節です。農民たちはこれらの季節を含めて作業時の雨除け・日除けとしてかぶりものを用いました。かぶりものには、手拭い、風呂敷(スカーフ)・帽子、頭巾、笠、などがあります。

これらのなかでも、笠について紹介すれば、笠の原料になるものは藁草(いぐさ)・菅(すげ)・ひのき・竹皮などがあげられます。武士の深編笠、虚無僧の天蓋・庶民の用いた折編笠、最上川の船頭笠などはいぐさやわらミゴで編んだものが多い。県内ではいぐさの産地として山形市の南西部長谷堂周辺があげられるが、タタミ表の原料としてだけでなく、編笠も作っていました。長谷堂周辺で栽培されたいぐさは流球藁といわれるもので俗にシチトとも呼んでいます。県内では自家用として「ヒドロ田」や「湿田」の一部を利用してシチトを栽培した例もみられます。

菅笠は山形県の代表的な民謡「花笠音頭」の踊

の際に用いられ、産地は飯豊町中津川が主として生産しています。上杉藩の領主が中津川を通った時に折り悪く雨が降り百姓の差し出したる菅笠を借りたのがきっかけとなり、産業奨励の一つにあげられ、隆盛の一途をたどり今日に至ったと伝えられています。しかし、昔の菅笠の内部で頭に当たる部分に雨を防ぐために笠の葉が用いられたが、現在では合理的でナイロンや新聞紙を用いられています。菅笠には町人用、足軽用の一文字笠、遠出をする際用いられる三度笠などがあり、いろいろな笠が作られています。



— 中央 スゲ笠 —

…… 催し物展報告 ……

**やまがたの野鳥展**

5月10日からの愛鳥週間にちなみ、県内産野鳥の繁殖の生態や食性を中心に展示し、野鳥保護のあり方を考えるために開催されました。

期間 5月10日(日)～6月8日(日)

巣箱コンクールの開催と展示

愛鳥週間の期間中5月11日より5月17日までの間に、山形市PTA連合会主催、山形県野鳥愛護会、県立博物館共催で開催されました。100個以上の出品があり、そのうち3個の最優秀賞と20個の優秀賞、4個の特別賞などが受賞されました。

野鳥研究会

5月10日(土)本館で、山形県野鳥愛護会主催、同山形支部、県立博物館共催で開催されました。野鳥愛護会山形支部の愛宕山鳥類調査報告、野鳥求護所実績報告や、野鳥のなき声のおぼえ方などを研究し、多くの成果がありました。

おねがいコーナー

本館では、次の資料を求めていますので、御協力下さい。

1. 10月5日より「やまがたのやきもの展」を開催いたしますが、やまがた県産の陶磁器の所在調査を行なっています。古いせともの屋の写真などありましたら御知らせ下さい。
2. 江戸時代の飢饉に関する記録はありませんか。
3. 江戸時代の百姓一撥に関する資料はありませんか。(伝説、供養碑)

鉄道錦絵と明治の風俗展

去る6月15日より6月29日まで、上記の催し物展を開催いたしました。県民の来館が多数あり絵で見る明治の文化に対して熱心に見学する人もあり盛況のうちに終了いたしました。

錦絵はご存知のように江戸時代の浮世絵から発展したもので明治以降になると浮世絵とちがった形で刷られ、彩色も鮮やかになり、文明開化期の風俗を伝えるものから錦絵と呼んでいます。明治の中央文化は山形へ伝わった年代は10～15年位遅れていることも理解されたようです。ご協力下さった交通博物館へ厚く感謝申し上げます。

**◎昭和50年度博物館協議会委員紹介**

工藤 定雄氏	山形大学教授 附属郷土博物館長 山形市城西町3-6-38
国井 董氏	県立天童商工高校長 天童市久野本1849-1
後藤 庸六氏	山形市立第二中学校長 山形市東原町4-278-1
森戸 小糸氏	鶴岡市立由良小学校長 鶴岡市本町3-9-48
阿部 金蔵氏	県社会教育委員 天童市大字山元1457
岸 伊一郎氏	県議会議員 最上郡金山町金山370
遠藤 登氏	県議会議員 天童市大字貫津904-2
犬塚又太郎氏	致道博物館長 鶴岡市陽光町12-48
大平 禎介氏	県総合学術調査会団長 山形市城北町1-22-22
長谷部 清氏	山形県市町村教育委員協議会長 山形市東原町3-11-23

山形県立博物館ニュース 第26号 ©

昭和50年7月10日発行

山形市霞城町1番8号(〒990)

山形県立博物館(TEL32-1111)